

【学校教育目標】

# 主体的に行動する児童の育成

～児童の多様性を認め、主体的に学習や活動に取り組む力が育つ学校～

三つの合言葉 「正しく」 「強く」 「和やかに」

【本校の現状と課題】

- 「新体カテストの数値分析の結果」より
  - ・男女ともに、多くの種目においても県平均の記録を下回っている。特に「反復横跳び」、「20mシャトルラン」において課題がみられる。
- 全体的な見取りより
  - ・「運動が好きな児童」は進んで運動をしているが、「運動を苦手と感じている児童」は全く運動を行わない姿が見られる。これは新体カテストの結果にも大きく影響を与えていると考えられることから、いわゆる「運動の二極化」が全体的な傾向としてある。

【取り組み】

### 鬼遊びの時間

授業の始まり5分間を鬼遊びの時間として設定し、どの学級・学年も鬼遊びに取り組むようにしている。内容は、代わり鬼や増え鬼、タグを使った鬼遊びなど、児童の実態に合わせて行っている。授業の中で、楽しみながら運動する習慣づけを行うことで、川島っ子が運動に前向きに取り組むきっかけとしたい。

### 川島っ子体力アップチャレンジ

体育・安全委員会が主体となって体力づくりに取り組む。児童の体力的な課題をもとに、昼休みにできる運動を年間を通して開催し、体力アップをねらう取り組みである。

第1回目は、「新体カテストの練習をしよう」を開催し、立ち幅跳びや反復横跳びなどの練習への参加を呼びかけ、多くの児童が参加した。

第2回目は、「うんていチャレンジ」を呼びかけ、握力向上をねらった。手の皮がむけるほど熱中する児童もおり、運動に親しむ児童が増加していると感じる。

今後は、「スポーツリバーシ」で、瞬発力や持久力を向上させる取り組みを考えており、児童が楽しみながら体力の向上をねらえるように計画していきたい。

### ドッジボール大会

年間2回（6月・2月）体育・安全委員会主催のドッジボール大会を実施する。児童自身でチームを作り、休み時間等を使って練習をして、低・中学年、高学年の2つのグループ内でトーナメントを行い、優勝を決める。

ドッジボール大会には3つのねらいがある。1つ目は、運動に進んで取り組むことで、基礎体力の向上を目指す。2つう目は、ドッジボールの練習を行うことで、ボール操作技能の向上を図る。3つ目は、低学年から高学年のすべての男女が参加できるようにすることで、児童の活躍の場の設定を図る。児童に人気の球技であることや、教員や友だちの応援が励みとなり、児童は積極的に参加しており、負けた児童も次回の開催を楽しみにしている。



【目標】

- 「新体カテストの数値における目標」
  - ・男女とも「反復横跳び」「20mシャトルラン」の記録を県平均以上にする。（令和6年度体力運動能力調査の結果）
- 運動に親しむ意欲・運動習慣における目標
  - ・昼休みの外遊び実施率を全校で80%以上にする。（遊びンPICの結果）